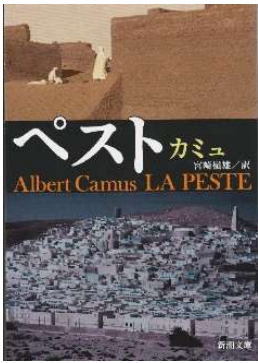




学校が再開し、中間考査も終わって、日常を取り戻しつつあると思います。梅雨入りして、休日に屋内で過ごすことも多くなってくのではないのでしょうか。そこで、有意義に時間を過ごせるように、今月は、白方良憲教頭先生（理科・定時制）・山本鷹裕先生（理科）・石川玲子先生（英語）からのおすすめの本を紹介します！

『ペスト』

図書館にあります！



カミュ 著 新潮社

はじまりは、リウーを階段でつまずかせた一匹の死んだ鼠だった。やがて、死者が出はじめ、医師のリウーは死因がペストであることに気付く。新聞やラジオがそれを報じ、町はパニックになる。死者の数は増える一方で、最初は楽観的だった市当局も対応に追われるようになる。

白方先生の一言

人間がどのようにペストを乗り越えていくかが描かれた作品です。

『一分で話せ』 伊藤洋一 著



いまでこそ「伝える」「プレゼン」が重要な仕事になっているものの、社会人になった当時はプレゼンが大の苦手だったのだとか。しかし、やがてグロービス経営大学院で「ストーリー」の作りかたを学んだことが、伝え方を改善するための大きな気づきとなったのだそうです。

山本先生の一言

相手にシンプルにわかりやすく伝える話し方について書いてあります。

『刑務所のリタ・ハイワース』

『ゴールデンボーイ―恐怖の四季 春夏編』収録の短編です。



スティーブン・キング 著 新潮社

殺人の罪でショーシャンク刑務所に収監され、よろず調達屋として過ごすレッド。そこに、1948年、アンディ・デュフレーションが妻とその愛人を殺した罪で、ショーシャンク刑務所に入所してくる。アンディは無実を主張していた。アンディはレッドにリタ・ハイワースのポスターの調達を依頼する。やがて、アンディは次々と奇跡を起こす。

石川先生の一言

男同士の友情が胸を打ちます。本当にかっこいいと思いました。「ショーシャンクの空に」という邦題で映画化もされています。

